

Poly(oxy-1,4-phenylenesulfonyl-1,4-phenylene) ポリフェニルエーテルポリフェニルサルホン

物質の概要

無臭の白色粉体

一般的用途として、電気電子部品・自動車部品・事務機部品・医療用部品・家庭器具類・メガネフレーム原料があります。（出典；NITE-CHRIP）

当社のポリフェニルエーテルポリフェニルサルホンは、一般工業用としての用途があります。

化学的特性

一般名	ポリフェニルエーテルポリフェニルサルホン		
別名	ポリエーテルサルホン		
化学名	ポリエーテルサルホン		
CAS 番号	113569-14-5 36313-66-3 25667-42-9 25608-63-3		
官報公示整理番号	化審法	(7)-1853	安衛法 公表
化学式	-		
構造式	-		

用途

一般工業用途

物理化学的特性

物理的状态	粉体
色	白色
臭い	無臭
pH	データなし。
融点/凝固点	(ガラス転移点 225-230 °C)
沸点	データなし。
引火点	> 200 °C 方法: セタ密閉式
自然発火温度 (発火点)	データなし。
爆発範囲の上限 (%) -	データなし。
爆発範囲の下限 (%) -	データなし。
蒸気圧:	データなし。
蒸気密度 (Air=1)	データなし。
比重	1.4
密度	データなし。
溶解度 (水)	不溶
溶解度 (その他)	ジメチルスルホキシド: 可溶性 N,N-ジメチルホルムアミド: 可溶性 N-メチル-2-ピロリドン: 可溶性 ジメチルアセトアミド: 可溶性
n-オクタノール/水分配 係数	データなし。
分解温度	>470 °C
蒸発率	データなし。

ヒト健康影響安全性評価

危険有害性項目	評価結果
急性毒性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 飲み込んだ場合、有害性を示す懸念は低いと考えられます。 急性毒性 (経口) LD50 (ラット): > 4,000 mg/kg ・ 皮膚に接触した場合、評価できる十分なデータがありません。 ・ ミスト/粉塵を吸入した場合、評価できる十分なデータがありません。 ・ 蒸気を吸入した場合、評価できる十分なデータがありません。
皮膚腐食性/刺激性	・ 評価できる十分なデータがありません。
眼に対する重篤な損傷性 /眼刺激性	・ 評価できる十分なデータがありません。
呼吸器感受性	・ 評価できる十分なデータがありません。
皮膚感受性	・ 評価できる十分なデータがありません。
生殖細胞変異原性	・ 評価できる十分なデータがありません。
発がん性	・ 評価できる十分なデータがありません。
生殖毒性	・ 評価できる十分なデータがありません。
単回投与毒性	・ 評価できる十分なデータがありません。
反復投与毒性	・ 評価できる十分なデータがありません。
吸引力呼吸器有害性	・ 評価できる十分なデータがありません。
その他の影響	-

上記評価はGHS (Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals): 世界的に統一されたルールに従って、化学品を危険有害性の種類と程度により分類し、

その情報が一目でわかるよう、ラベルで表示したり、安全データシートを提供したりするシステム)に従って行なっています。

環境影響安全性評価

危険有害性項目	評価結果
水生環境有害性（急性）	・評価できる十分なデータがありません。
水生環境有害性（慢性）	・評価できる十分なデータがありません。
オゾン層への有害性	・評価できる十分なデータがありません。

上記評価はGHS (Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals : 世界的に統一されたルールに従って、化学品を危険有害性の種類と程度により分類し、その情報が一目でわかるよう、ラベルで表示したり、安全データシートを提供したりするシステム)に従って行なっています。

環境中の運命・挙動	
生分解性	・評価できる十分なデータがありません。
生物蓄積性	・評価できる十分なデータがありません。
PBT/vPvB（注）	・評価できる十分なデータがありません。
土壌への移行性	・評価できる十分なデータがありません。

（注）PBTとは、「Persistent, Bioaccumulative and Toxic」を略したもので、環境中に残留し、高い生物蓄積性と強い毒性を有する物質のことです。またvPvBとは、「Very Persistent and Very Bioaccumulative」を略したもので、環境中に非常に残留し、非常に高い生物蓄積性を有する物質のことです。

ばく露

作業員ばく露	<ul style="list-style-type: none"> ・製造時は局所排気装置を備えた制御条件管理下。作業員への暴露は限定的です。 ・当該物質を原料とした製品の製造プロセスでは、配合やサンプリング、移し替え作業等で作業員への暴露の可能性があります。しかしながら、適切な保護具の着用と、適切な設備、日本産業衛生学会やACGIH(米国産業衛生専門家会議)による職業的許容濃度の勧告値を下回るよう管理・制御することにより、実際のばく露は限られます。
消費者ばく露	<ul style="list-style-type: none"> ・当該物質は一般消費者にて直接使用される可能性は極めて低いです。
環境ばく露	<ul style="list-style-type: none"> ・制御された製造工程から、主に大気および水環境へ排出の可能性があります。 ・当該物質を原料とした製品の製造プロセスでは、配合やサンプリング、移し替え作業等で環境への排出の可能性が考えられます。しかしながら、排気設備、排ガス除害装置、排水処理施設での適切な処理により、実際の環境への放出は限られます。

作業 者	技術的対策 <ul style="list-style-type: none"> ・ 密閉された装置、機器または局所排気装置を設置する。 ・ 局所または全体排気装置を設置する。 ・ 空気呼吸器あるいは循環式酸素呼吸器を備える。 ・ 洗眼設備や手や全身の洗浄設備を設ける。 												
	局所排気・全体換気 <ul style="list-style-type: none"> ・ 局所排気、全体換気を行う。 												
	許容濃度 <ul style="list-style-type: none"> ・ 職業的許容濃度の勧告値として以下が公表されており、当該物質の製造・使用場所では、この勧告値を下回るよう管理・制御する。 <p>[日本産業衛生学会]</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 60%;">第3種粉塵 - 吸入性粉塵</td> <td style="width: 20%;">許容濃度</td> <td style="width: 20%;">2 mg/m³</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">- 総粉塵</td> <td>許容濃度</td> <td>8 mg/m³</td> </tr> </table> <p>[US. ACGIH]</p> <p>Particles (insoluble or poorly soluble) Not Otherwise Specified (PNOS)</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 40%;">- Respirable particles</td> <td style="width: 10%;">TWA</td> <td style="width: 50%;">3 mg/m³</td> </tr> <tr> <td>- Inhalable particles</td> <td>TWA</td> <td>10 mg/m³</td> </tr> </table>	第3種粉塵 - 吸入性粉塵	許容濃度	2 mg/m ³	- 総粉塵	許容濃度	8 mg/m ³	- Respirable particles	TWA	3 mg/m ³	- Inhalable particles	TWA	10 mg/m ³
	第3種粉塵 - 吸入性粉塵	許容濃度	2 mg/m ³										
	- 総粉塵	許容濃度	8 mg/m ³										
	- Respirable particles	TWA	3 mg/m ³										
	- Inhalable particles	TWA	10 mg/m ³										
	保護具												
	呼吸器の保護具 <ul style="list-style-type: none"> ・ 呼吸用保護具は、必ず、使用地域で定められた規格に合致したものを使用する。 ・ 換気設備の機能の低下等の緊急時および漏出時の措置では、空気呼吸器あるいは循環式酸素呼吸器を着用する。 												
	手の保護具 <ul style="list-style-type: none"> ・ 手の保護具は、必ず、使用地域で定められた規格に合致したものを使用する。 ・ 保護手袋。溶融物を扱う場合は耐熱性保護手袋。 												
目の保護具 <ul style="list-style-type: none"> ・ 目の保護具は、必ず、使用地域で定められた規格に合致したものを使用する。安全ゴーグル。 													
皮膚及び身体の保護具 <ul style="list-style-type: none"> ・ 個人用保護具は、必ず、使用地域で定められた規格に合致したものを使用する。 ・ 帽子、靴等を含む適切な不浸透性保護衣を着用する。 ・ [溶融状態]：防護面、ヘルメット、手袋を含む防火服を着用する。 													
注意事項 <ul style="list-style-type: none"> ・ 屋外または換気の良い場所でのみ使用する。 ・ 屋外での取扱いはできるだけ風上から行う。 ・ 取扱場所には関係者以外の立ち入りを禁止する。 ・ 眼、皮膚、衣服への接触を避ける。 													

	<ul style="list-style-type: none"> ・粉体、粉じんや削り屑、切り屑等の加工屑を吸入しない。 ・設備対策を行い、保護具を着用する。 ・製品の取扱い後および飲食の前にはよく手や顔を洗淨する。 ・取り扱う場所での飲食と喫煙を禁止する。 ・汚染された作業衣は作業場から出さない。 ・粉体製品を取り扱う場合は、密閉された装置、機器または局所排気装置を使用する。 ・換気設備の機能の低下等の緊急時および漏出時の措置では、空気呼吸器あるいは循環式酸素呼吸器を着用する。 ・粉じんを発生させない。
消費者	<ul style="list-style-type: none"> ・当該物質は一般消費者にて直接使用される可能性は極めて低いです。
環境	<ul style="list-style-type: none"> ・漏出物処理時の廃液が、排水溝、下水溝、地下室、あるいは閉鎖場所へ流入するのを防ぐ。 ・環境中に放出しない。 ・国および地方自治体（都道府県市町村）の規則に従って、内容物/容器を適切に廃棄する。
漏出時の緊急処置	<p>人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業時に保護具を着用する。 ・作業時に使用する個人用保護具については「保護具」を参照。 ・全ての方向に適切な距離をとり、漏出区域への立ち入りを禁止する。 ・適切な換気を行う。 ・風上から作業する。 ・流出物質に触ったり、踏んだりしない。 <p>環境に対する注意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漏出物処理時の廃液が、排水溝、下水溝、地下室、あるいは閉鎖場所へ流入するのを防ぐ。 ・環境中に放出しない。 <p>回収、中和</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飛散したものを掃き集めて密閉式の容器に移す。 ・飛散防止のため微粉の捕集には粉じん防爆タイプの集じん機を使用する。 ・廃棄は、国および地方自治体（都道府県市町村）の規則に従って、内容物/容器を適切に廃棄する。 <p>封じ込め及び浄化の方法・機材</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全ての着火源(熱/火花/裸火/高温表面/静電気放電、等)を取り除く。 ・専門家に相談する。 ・危険でなければ漏れを止める。適切ならば粉体の飛散防止のためにまず湿らせる。 ・残留分を注意深く集め、安全な場所に移す。 <p>二次災害の防止策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全ての着火源(熱/火花/裸火/高温表面/静電気放電、等)を取り除く。 ・適切な消火剤を準備する (初期火災：粉末消火剤、二酸化炭素、散水、泡消火剤)

	大規模火災：散水、水噴霧、泡消火剤）。 ・大量の場合、風下に適切な避難距離をとる。
--	--

法規制情報		
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	・ 法第2条第4項、施行令第2条の1 産業廃棄物	
消防法	・ 非危険物（危険物、指定可燃物のいずれにも該当しない）	

GHS 分類		
健康に対する有害性	全項目	分類できないまたは区分外
環境に対する有害性	全項目	分類できない

連絡先

<http://www.sumitomo-chem.co.jp/contact/>

発行・改訂日

改訂情報		
区分	年/月	改訂箇所
制定	2019年12月23日	-

その他の情報

国際機関、各国当局によるレビュー：なし。

免責事項

安全性要約書は、化学産業界の自主的化学品管理の取組み(GPS/JIPS=Japan Initiative of Product Stewardship)の一環として作成されたものです。安全性要約書の目的は、対象物質に関する安全な取扱いに関する概要を提供することであり、リスク評価のプロセス及びヒト健康や環境への影響などの専門的な情報を詳しく提供するものではありません。記載内容は、弊社が発行するSDS（化学品等安全データシート）（Oct. 03, 2016）等にもとづいて作成しておりますが、いかなる保証をなすものではありません。